

ICAN Monthly Report II



商品の作り手の想いを伝える大切さ

私は、2016年に開催された社会貢献イベントで、アイキャンのフェアトレード活動を知りました。フェアトレードは、国際協力に関する専門的な知識がほとんどない自分にも、商品の購入を通してできる身近な活動であると知り、興味を持ちました。買い手としてだけでなく、この活動を広める側にもなるために、アイキャンのボランティアとして関わり始めました。また、アイキャンのスタディツアーに参加し、フェアトレード商品の作り手であるフィリピンのパヤタスごみ処理場周辺に住む女性たちに直接出会ったことで、フェアトレードへの関心が強まり、現在はインターンとして、イベント出展を担当しています。

10月14日と15日の2日間、国際協力イベント「ワールドコロボフェスタ」に出展しました。今回は、私がスタディツアーで聞いた、パヤタスの女性たちの「家計を支えたい」という切実な思いや、作成した商品を誰かが購入してくれることに大きな喜びを感じるということ、具体的に説明することで、商品を手取る人が、作り手についても知ることができるよう工夫しました。また、フェアトレードの仕組みを説明し、理解してもらうことで、商品を購入する人が「できること」を実践していると実感できるよう配慮しました。これらは、アイキャンがフェアトレードを通じて伝えようとしていることであると同時に、私自身これまでのフェアトレード出展で上手く伝えてこれなかったことでもありました。

それまでに行ってきたフェアトレード出展では、商品を販売することに集中し、パヤタスの女性たちの切実な思いや喜び、また、フェアトレードの仕組みなどを伝えられず、煮え切らない思いを抱えていました。今回の出展前に振り返ってみると、これまではブース内から通行人に呼びかけ、立ち止まってくれた人にだけ話すという受け身の姿勢だったことに気づきました。そこで、今までに伝えようとしていたことを事前に改めて整理し、当日はブースの外に出て精力的な呼びかけも行いました。こうした努力の成果として、一日目に来店したある大学生がフェアトレードに興味を持ち、二日目にボランティアとして参加したいと申し出てくれ、活動を広める仲間を増やすことができました。

今後もインターンとして、パヤタスの女性たちが、フェアトレードを通して笑顔で過ごしていくことができるように、また、より多くの人々がフェアトレードに出会い、パヤタスの女性たちの想いを知る機会となるように、フェアトレードのイベント出展の運営を続けていきたいと思っています。



ICAN 日本事務局
インターン
小島綾華(こじまあやか)
～プロフィール～
中京大学3年生。アイキャンのボランティアを経て、2017年8月から日本事務局にてインターン開始。

Project Site



〈特集〉
ケソン
①マニラ

②マラウイ

※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定 NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

①路上の子どもたち 10月より週2回開催／マニラ(フィリピン)

読み書き特訓の特別プログラム

10月から、ドロップインセンターでは、路上の子どものうち、特に、読み書きに難しさを感じている5名の子どもたちに対し、集中的に識字教育を行う特別授業を開始しました。



自分の名前を書けるようになったマイケル君(8歳)は「お母さんにも見せたい。」と喜びを語りました。引き続き、読み書きの習得を目指して、特別プログラムを実施していきます。

②紛争の影響を受けた子どもたち 10月22-25日／コタバト(フィリピン)

平和教育の活動計画を策定

ミンダナオ島マラウィの教育省職員及び学校教師25名に対して、平和教育・平和活動計画についての研修を実施し、平和教育の授業案や年間活動計画を策定しました。参加者のシッティさん(教育省職員、46歳)からは、「子どもたちに平和の大切さを教えていく必要がある。紛争を繰り返さないために、策定した活動計画を必ず実施していきたい。」との感想がありました。



II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

NGO 相談員事業 10月14日／愛知

小学生に、同世代の路上の子どもについて伝える



名古屋市立八事小学校の5年生60名に対し、NGO相談員出張サービスによる講演を行い、マニラの路上の子どもたちが置かれた現状等について伝えました。「僕たちが毎日学校で勉強できていることは、当たり前ではなく、マニラの路上で暮らす子どもたちにとっては、特別なことなのだと思います。自分の置かれている環境を大切にしようと思います。」等の感想がありました。

MY アイキャン事業 10月7日／愛知

3名が街頭募金に初参加



今回の街頭募金には、3名のボランティアが初めて参加しました。参加者同士で、街頭募金を盛り上げるためのアイデアを出し合い、「声を揃えること」と「全員で揃ってお辞儀をすること」を徹底することにしました。参加者からは「初めての参加だったが、みんなで声やお辞儀を揃えたことで、多くの人に私たちの声を届けることができたと思う。今後も参加したい。」とのコメントがありました。

今月の Announcement

春のスタディツアー参加者大募集!

【日程】2月28日～3月4日(5日間) 3月21日～3月25日(5日間)

フィリピンの路上の子どもたちや、フィリピン最大のごみ処分場周辺地域で暮らす人々と「交流」できるアイキャンのスタディツアーに、是非、参加しませんか? 今年の春は、2回開催します。HPをご覧ください。HPをご覧ください。まずは資料をご請求ください!

今月の Media

10月4日 外交 Vol.45 NGO相談員について 10月16日-20日 Yemen News 他 イエメンでの緊急救援物資提供について

今月の ICAN 那人

◎理香子さん、何度もツアーに参加していただき、ありがとうございます!

マンスリーパートナー 桑山理香子さん 「子どもたちはかけがえのない存在」

インタビュー:11月13日

私は、大学で、アイキャンの職員による講演を聞き、フィリピンの路上の子どもたちの存在を知りました。自分の目で確かめたいと思い、2016年9月のスタディツアーに参加しました。

フィリピンでは、路上の子どもたちが置かれている状況を目の当たりにして、衝撃を受けました。ツアーを通して、交流した路上の子どもたちのことを他人事と思わず、彼らに対して、何かできることはないか、様々な方法を模索してきました。そして、国際協力イベント「グローバルフェスタ」に、アイキャンのブースのボランティアとして参加しました。また、大学の学園祭では、来場者にフィリピンを身近に感じてもらうために、フィリピンのお菓子の販売も行いました。

「私のできること」を積み重ねていくうちに、以前出会ったフィリピンの子どもの存在への想いが益々強くなるのを感じ、翌年の春に開催されたツアーに再び参加しました。アイキャンの児童養護施設「子どもの家」の子どもたちは、私を「アテ(お姉さん)」と呼んで、姉のように慕ってくれました。私にとっても、子どもたちは弟妹のようなかけがえのない存在です。

参加した両方のツアーで、私は子どもたちと絆を築くことができ、「人々のためではなく、人々とともに」というアイキャンの理念を、身をもって知ることができました。今後も人々と「ともに」あるアイキャンの活動を多くの人に伝え、「できること」を実践する人の輪を広げていきたいです。そして、必ずまた子どもたちの笑顔を見に行きます!



【編集者から一言】 理香子さんのように、スタディツアーに参加して、フィリピンの子どもの存在と交流しませんか?